

(2) 下水道

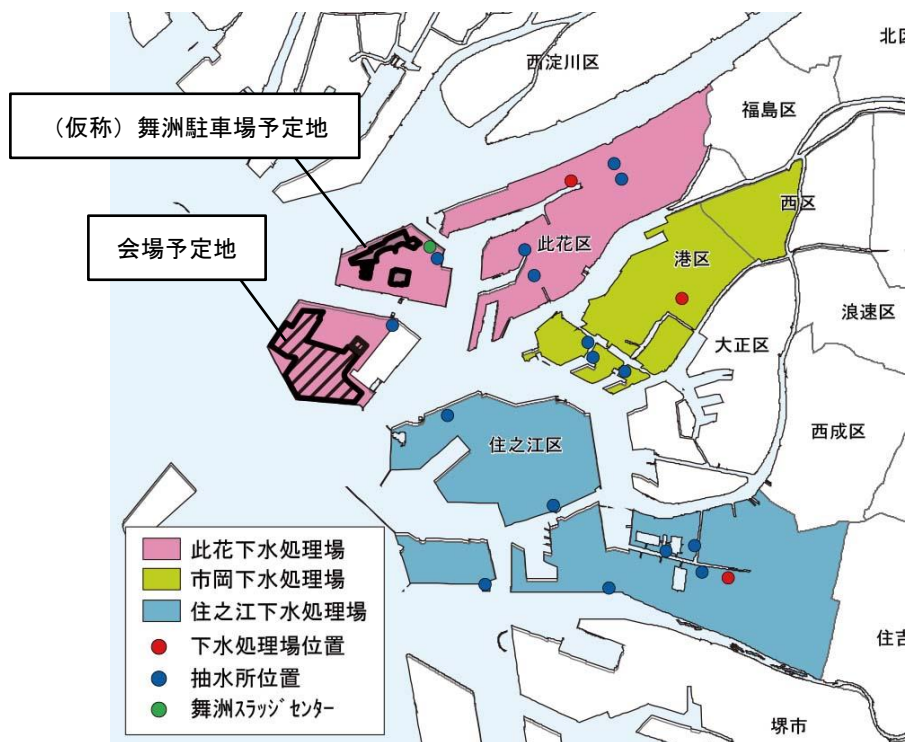
大阪市の令和2年度末の下水道の普及状況は表2.1.13に、事業計画地及びその周辺の下水処理場別の処理区域は図2.1.11に示すとおりである。

大阪市では、早くから下水道の整備に努めてきた結果、面積普及率は97.6%、人口普及率は99.9%となっている。会場予定地は、令和元年度第2回大阪市都市計画審議会において、此花下水処理場の排水区域に編入された。

表 2.1.13 下水道の普及状況（令和2年度末）

| 区域 | 処理面積 (ha) | 陸地面積 (ha) | 処理区域 面積普及率 (%) | 処理人口 普及率 (%) | 下水管 渠延長 (km) | 処理 場数 | 処理能力 (m ³ /日) |
|---------|--------------|--------------|----------------------|--------------------|--------------------|----------|-----------------------------|
| 此花処理区域 | 1,387 | — | — | — | — | 1 | 168,000 |
| 市岡処理区域 | 821 | — | — | — | — | 1 | 120,000 |
| 住之江処理区域 | 3,231 | — | — | — | — | 1 | 220,000 |
| 大阪市全域 | 19,062 | 19,530 | 97.6 | 99.9 | 4.967 | 12 | 2,844,000 |

出典：「大阪市環境白書（令和3年度版）」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）



※大阪市資料をもとに作成

図 2.1.11 下水処理場別処理区域

2.2 生活環境の概要

2.2.1 大気質

「令和2年度の大気汚染状況」、「令和2年度ダイオキシン類環境調査結果」及び「大阪市環境白書（令和3年度版）」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）によると、事業計画地周辺における大気質の現況は以下に示すとおりである。

なお、大阪市内における大気汚染常時監視測定局の配置は図2.2.1に、事業計画地周辺の測定局における測定結果の概要は表2.2.1(1)、(2)に、それぞれ示すとおりである。

1. 二酸化窒素（NO₂）

事業計画地から最も近い住之江区の南港中央公園測定局の、令和2年度における二酸化窒素の日平均値の年間98%値は0.043ppmであった。そのほか住之江区では、清江小学校測定局、北粉浜小学校測定局、住之江交差点測定局で測定が行われており、それぞれ0.035ppm、0.036ppm、0.040ppmであった。また、此花区では此花区役所測定局で0.038ppmであった。

なお、令和2年度の市内における環境基準達成状況は、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）13局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）11局の全局で達成した。

2. 浮遊粒子状物質（SPM）

事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、令和2年度における浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値は0.039mg/m³であった。そのほか清江小学校測定局、北粉浜小学校測定局においてそれぞれ0.040mg/m³、0.046mg/m³であった。また、此花区役所測定局で0.039mg/m³であった。

なお、令和2年度の市内における環境基準達成状況は、一般局（14局）及び自排局（9局）の全局で達成した。

3. 微小粒子状物質（PM_{2.5}）

事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、令和2年度における微小粒子状物質の年平均値及び日平均値の年間98%値は13.7μg/m³及び31.8μg/m³であった。そのほか北粉浜小学校測定局で16.1μg/m³及び38.7μg/m³であった。また、此花区役所測定局で11.0μg/m³及び28.7μg/m³であった。

なお、令和2年度の市内における環境基準達成状況は、一般局7局のうち6局で達成し、自排局5局のうち4局で達成した。

4. 光化学オキシダント（O_x）

事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、令和2年度における光化学オキシダントの昼間（午前6時から午後8時）の1時間値の年平均値は、0.026ppmであった。そのほか清江小学校測定局で0.032ppmであった。また、此花区役所測定局で0.028ppmであった。

なお、令和2年度の市内における環境基準達成状況（短期的評価）は、前年度に引き続き一般局（13局）の全局で達成しなかった。

5. 二酸化硫黄 (SO₂)

事業計画地から最も近い南港中央公園測定局の、令和2年度における二酸化硫黄の日平均値の2%除外値は0.006ppmであった。そのほか清江小学校測定局で0.014ppmであった。また、此花区役所測定局で0.006ppmであった。

なお、令和2年度の市内における環境基準達成状況は、一般局(10局)及び自排局(2局)の全局で達成した。

6. 一酸化炭素 (CO)

此花区、港区、住之江区では一酸化炭素の測定は行われていない。事業計画地から近いところでは、西淀川区の出来島小学校測定局で行われており、令和2年度における日平均値の2%除外値は0.5ppmであった。

なお、令和2年度の市内における環境基準達成状況は、自排局(3局)の全局で達成した。



出典：「令和2年度の大気汚染状況」(大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧)

図 2.2.1 大気汚染常時監視測定局の配置

表 2.2.1(1) 大気質の測定結果の概要（一般環境大気測定局）

| 番号 | 測定局名 | 二酸化窒素 (NO ₂) | | | 浮遊粒子状物質 (SPM) | | | | 微小粒子状物質 (PM _{2.5}) | | | 光化学オキシダント (Ox) | | | | 二酸化硫黄 (SO ₂) | | | |
|----|-----------|-----------------------------|-------------|--|----------------------|----------------------|----------------|--|------------------------------|----------------------|----------------------|----------------|-----------------------|------------------------|---|--------------------------|------------|----------------|---------------|
| | | 年平均値 | 日平均値の年間98%値 | 環境基準達成状況 | 年平均値 | 日平均値の2%除外値 | 基準超過が2日以上連続の有無 | 環境基準達成状況 | 年平均値 | 日平均値の98%値 | 環境基準達成状況 | 昼間の1時間値の年平均値 | 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数 | 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数 | 環境基準達成状況 | 年平均値 | 日平均値の2%除外値 | 基準超過が2日以上連続の有無 | 環境基準達成状況 |
| | | (ppm) | (ppm) | | (mg/m ³) | (mg/m ³) | | | (μg/m ³) | (μg/m ³) | | (ppm) | (日) | (時間) | | (ppm) | (ppm) | | |
| 2 | 此花区役所 | 0.017 | 0.038 | ○ | 0.016 | 0.039 | 無 | ○ | 11.0 | 28.7 | ○ | 0.028 | 22 | 94 | × | 0.003 | 0.006 | 無 | ○ |
| 9 | 清江小学校 | 0.016 | 0.035 | ○ | 0.015 | 0.040 | 無 | ○ | — | — | — | 0.032 | 69 | 313 | × | 0.005 | 0.014 | 無 | ○ |
| 14 | 南港中央公園 | 0.019 | 0.043 | ○ | 0.015 | 0.039 | 無 | ○ | 13.7 | 31.8 | ○ | 0.026 | 44 | 150 | × | 0.004 | 0.006 | 無 | ○ |
| | 市内平均 | 0.015 | — | 13 — 13 | 0.016 | — | — | 14 — 14 | 12.3 | — | 6 — 7 | 0.032 | 62 | 268 | 0 — 13 | 0.004 | — | — | 10 — 10 |
| | 環境基準の評価方法 | 日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。 | | 日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。 | | | | 1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ日平均値の年間98%値が35μg/m ³ 以下であること。 | | | 1時間値が0.06ppm以下であること。 | | | | 日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。 | | | | |

表 2.2.1(2) 大気質の測定結果の概要（自動車排出ガス測定局）

| 番号 | 測定局名 | 二酸化窒素 (NO ₂) | | | 浮遊粒子状物質 (SPM) | | | | 微小粒子状物質 (PM _{2.5}) | | | 一酸化炭素 (CO) | | | | 二酸化硫黄 (SO ₂) | | | |
|----|-----------|-----------------------------|-------------|--|----------------------|----------------------|----------------|--|------------------------------|----------------------|---|------------|------------|----------------|---|--------------------------|------------|----------------|-------------|
| | | 年平均値 | 日平均値の年間98%値 | 環境基準達成状況 | 年平均値 | 日平均値の2%除外値 | 基準超過が2日以上連続の有無 | 環境基準達成状況 | 年平均値 | 日平均値の98%値 | 環境基準達成状況 | 年平均値 | 日平均値の2%除外値 | 基準超過が2日以上連続の有無 | 環境基準達成状況 | 年平均値 | 日平均値の2%除外値 | 基準超過が2日以上連続の有無 | 環境基準達成状況 |
| | | (ppm) | (ppm) | | (mg/m ³) | (mg/m ³) | | | (μg/m ³) | (μg/m ³) | | (ppm) | (ppm) | | | (ppm) | (ppm) | | |
| 16 | 出来島小学校 | 0.023 | 0.041 | ○ | 0.016 | 0.040 | 無 | ○ | 11.3 | 28.1 | ○ | 0.3 | 0.5 | 無 | ○ | 0.003 | 0.004 | 無 | ○ |
| 17 | 北粉浜小学校 | 0.018 | 0.036 | ○ | 0.018 | 0.046 | 無 | ○ | 16.1 | 38.7 | × | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 23 | 住之江交差点 | 0.021 | 0.040 | ○ | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 市内平均 | 0.019 | — | 11 — 11 | 0.017 | — | — | 9 — 9 | 12.0 | — | 4 — 5 | 0.3 | — | — | 3 — 3 | 0.003 | — | — | 2 — 2 |
| | 環境基準の評価方法 | 日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。 | | 日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。 | | | | 1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ日平均値の年間98%値が35μg/m ³ 以下であること。 | | | 日平均値の2%除外値が10ppm以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。 | | | | 日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であり、基準超過が2日以上連続しないこと。 | | | | |

- 注：1. 各項目の市内平均の年平均値欄の数字は、各測定局の年平均値の平均を示す。
 2. 各項目の市内平均の環境基準達成状況欄の数字は、(環境基準達成局数) / (有効測定局数) を示す。
 3. 環境基準達成状況については、光化学オキシダントを除き長期的評価による。
 4. 番号は図 2.2.1 に対応している。

出典：「令和2年度の大気汚染状況」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）

7. ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン

此花区、港区、住之江区では測定が行われていない。事業計画地から近いところでは、西淀川区の出来島小学校測定局で令和2年度におけるベンゼンの年平均値が $0.97\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、大正区の平尾小学校測定局でジクロロメタンの年平均値が $2.6\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。

なお、令和2年度の市内4地点における環境基準達成状況は、表2.2.2に示すとおり、一般局(3局)、自排局(1局)の全局で達成した。

表 2.2.2 令和2年度の有害大気汚染物質のモニタリング結果

(単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$)

| 物質名 | (番号) 測定局名 | (1) | (10) | (3) | (16) | 市内 平均 | 環境基準 【指針値】 |
|------------|--------------|-------------|--------------|--------------|----------------|----------|---------------|
| | | 北区 菅北小学校 | 平野区 摂陽中学校 | 大正区 平尾小学校 | 西淀川区 出来島小学校 | | |
| ベンゼン | | 0.68 | 0.64 | - | 0.97 | 0.76 | 3以下 |
| トリクロロエチレン | | 0.34 | 0.40 | - | - | 0.37 | 130以下 |
| テトラクロロエチレン | | 0.16 | 0.23 | - | - | 0.20 | 200以下 |
| ジクロロメタン | | 2.0 | 2.4 | 2.6 | - | 2.3 | 150以下 |

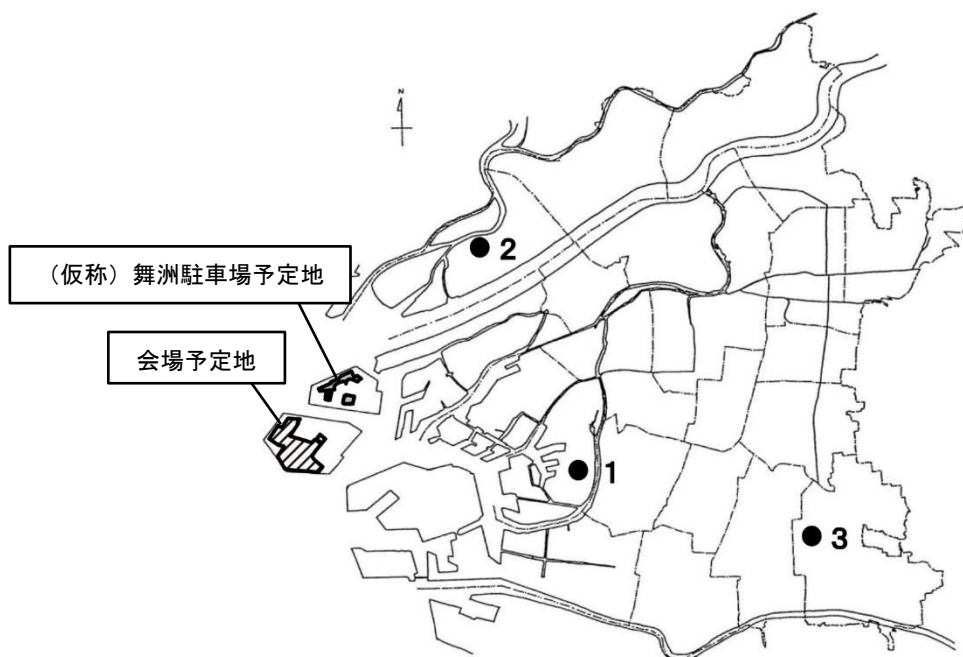
注：番号は図2.2.1に対応している。

出典：「大阪市環境白書（令和3年度版）」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）

8. ダイオキシン類

令和2年度のダイオキシン類（大気）の調査地点及び結果は、図2.2.2及び表2.2.3に示すとおりである。此花区、港区、住之江区では調査は行われていない。事業計画地から近いところでは、大正区の平尾小学校で年間平均値が0.047pg-TEQ/m³、西淀川区の淀中学校で0.043pg-TEQ/m³であった。

なお、市内の年間平均値の範囲は0.036～0.047pg-TEQ/m³であり、調査地点（3地点）全てで環境基準（0.6pg-TEQ/m³以下）を達成した。



出典：「令和2年度ダイオキシン類環境調査結果」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）

図2.2.2 令和2年度のダイオキシン類（大気）の調査地点

表2.2.3 令和2年度のダイオキシン類（大気）の調査結果

(単位：pg-TEQ/m³)

| No. | 調査地点 | 年間測定回数 | 測定結果の最小値～最大値 | 令和元年度年間平均値 |
|-----|----------------|--------|--------------|------------|
| 1 | (大正区) 平尾小学校 | 2 | 0.037～0.057 | 0.047 |
| 2 | (西淀川区) 淀中学校 | 2 | 0.036～0.050 | 0.043 |
| 3 | (平野区) 摂陽中学校 | 2 | 0.031～0.040 | 0.036 |

出典：「令和2年度ダイオキシン類環境調査結果」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）

2.2.2 水質

「大阪市環境白書（令和3年度版）」、「令和2年度大阪府域河川等水質調査結果報告書」（大阪府、令和4年）及び「令和2年度ダイオキシン類環境調査結果」によると、事業計画地周辺における令和2年度の水質の生活環境項目及び健康項目、令和2年度のダイオキシン類の現況は以下に示すとおりである。

なお、令和2年度の河川・海域における水質調査地点は、図2.2.3に示すとおりである。事業計画地周辺の大阪湾水域における水質調査結果は、表2.2.4に示すとおりである。

1. 生活環境項目

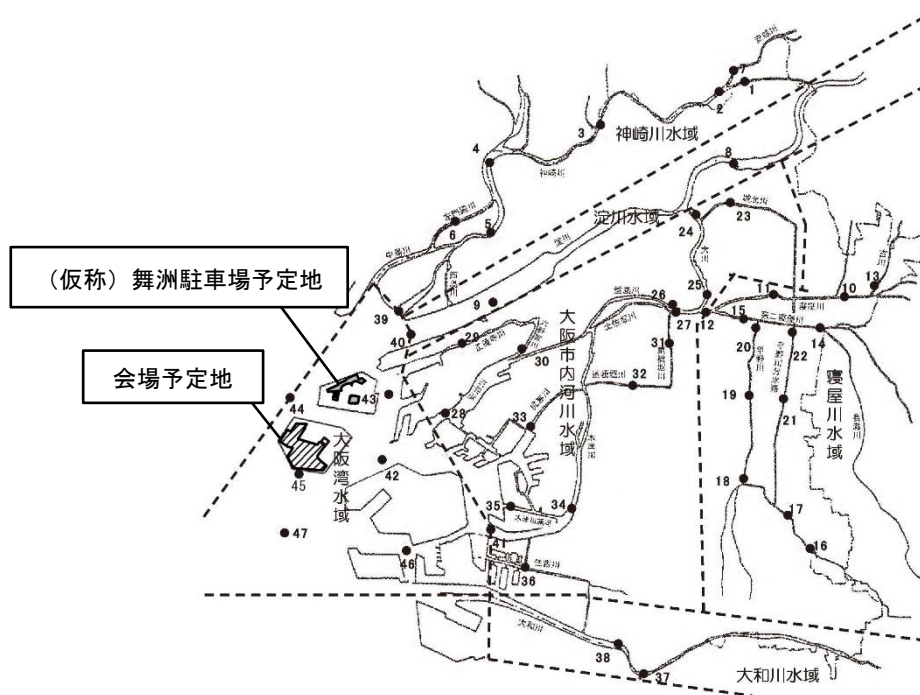
大阪湾水域は、環境基準の類型指定（海域C類型）を受けており、全9地点で調査が行われている。

令和2年度の調査結果は、pHが神崎川河口中央、淀川河口中央、No.5ブイ跡、No.25ドルフィン、北港沖1,000m、大阪港関門外、南港、大阪港C-3の8地点で最大値が8.3を超えた。全窒素は神崎川河口中央、淀川河口中央、木津川河口中央、No.5ブイ跡、No.25ドルフィン、南港の6地点で、全リンは神崎川河口中央、淀川河口中央、木津川河口中央、No.5ブイ跡、大阪港関門外、南港の6地点で、年平均値が環境基準（全窒素：1mg/L以下、全リン：0.09mg/L以下）を達成しなかった。

2. 健康項目

事業計画地周辺では、全7地点で調査が行われている。

令和2年度の調査結果は、全地点において環境基準を達成した。



出典：「大阪市環境白書（令和3年度版）」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）

図2.2.3 令和2年度の河川・海域における水質調査地点

表 2.2.4 大阪湾水域における水質調査結果

| No. | 調査地点 | 類型 | pH | DO (mg/L) | COD (mg/L) | 全窒素 (mg/L) | 全リン (mg/L) |
|------|----------------|------|------------------|--------------|---------------|---------------|----------------|
| 39 | 神崎川 河口中央 | C・IV | 7.9～8.7 | 8.4 | 4.4 (4.9) | 2.2 | 0.17 |
| 40 | 淀川 河口中央 | C・IV | 7.5～8.8 | 9.1 | 3.8 (3.9) | 1.1 | 0.11 |
| 41 | 木津川 河口中央 | C・IV | 7.4～8.0 | 8.8 | 4.4 (4.7) | 2.9 | 0.15 |
| 42 | No.5 ブイ跡 | C・IV | 8.0～8.9 | 9.8 | 4.0 (5.0) | 1.4 | 0.15 |
| 43 | No.25 トルフィン | C・IV | 8.0～9.0 | 11 | 4.4 (4.0) | 1.3 | 0.065 |
| 44 | 北港沖 1,000m | C・IV | 8.2～8.9 | 11 | 4.1 (3.6) | 0.97 | 0.048 |
| 45 | 大阪港 関門外 | C・IV | 7.2～8.8 | 9.5 | 4.0 (4.5) | 1.0 | 0.099 |
| 46 | 南 港 | C・IV | 8.0～8.8 | 8.7 | 4.2 (4.4) | 1.3 | 0.10 |
| 47 | 大阪湾 C-3 | C・IV | 7.8～8.7 | 8.7 | 4.5 (5.9) | 0.77 | 0.077 |
| 環境基準 | | | 7.0 以上 8.3 以下 | 2mg/L 以上 | 8mg/L 以下 | 1mg/L 以下 | 0.09mg/L 以下 |

注：1. 表中の数値は、表層における測定値である。

2. 数値は年平均値である。(但し、pHは最小～最大を示している。)

3. CODの()内の数値は、日間平均値の年間75%値を示している。

出典：「大阪市環境白書（令和3年度版）」（大阪市ホームページ、令和4年4月閲覧）

3. ダイオキシン類

ダイオキシン類（水質）の調査地点は、図 2.2.4 に示すとおり、海域では7地点で調査が行われている。同地点では水底の底質についても調査が行われており、これらの調査結果は、表 2.2.5 に示すとおりである。

平成30年度から令和2年度にかけて、全地点で環境基準（水質：1pg-TEQ/L以下、底質：150pg-TEQ/g以下）を達成した。